

声

業界の

● 甲府市廃棄物協業組合

理事長 三枝 政義氏



業界の現況は？

本組合では、甲府市の委託により一般家庭から出されるゴミの収集運搬を行っており、市内の全27ルートのうち15ルートを受託しています。その他、収集運搬作業以外にも、独自にサービスクーで収集ルートを巡回し、未回収(取り残し)ゴミの収集、集積場所の清掃、苦情現場での対応など、市民サービスの向上に努めています。

こうした中、平成29年には、甲府市、笛吹市、山梨市、甲州市による4市合同の広域処理施設が境川町で稼働となり、現在使用している甲府市環境センター内の焼却場、処理施設は廃止となる予定です。これに伴い、収集運搬車両の燃料コストの増加が見込まれるため、ルートの見直しや効率的な回収方法など、業務改善の検討と対応に迫られており、現在使用している2トン車両を段階的に3トン車両に入れ替えるなどに取り組み、4年後を見据えた準備を始めている状況です。

今後の展開は？

本組合の業務は、「いかにすれば、安全に且つスピーディーに回収が出来るか」を常に考える必用があり、甲府市民の生活や環境をより良くし、快適に過ごしてもらうことが使命だと考えています。こうした中で本組合では、作業員が勤務中に遭遇した事故でのケガ人、路上での急病人など、緊急時における対応が図れるよう、30名の作業員全員が、自動体外式除細動器(以下AED)の操作や救急救命に関する講習を修了し、先月までに一部収集運搬車両へのAEDの設置を行ったところです。

本来の業務と合わせて、これまで以上に市民の生活環境のサービス向上を目指すとともに、市民に頼られる組合となり、存在意義を高めていきたいと思えます。



AED設置車両

甲府市廃棄物協業組合